



TITLE:

[共同利用・国際協同観測・研究交流]共同研究・受託研究

AUTHOR(S):

CITATION:

[共同利用・国際協同観測・研究交流]共同研究・受託研究. 京都大学大学院理学研究科附属天文台年次報告 2002, 2001年(平成13年): 41-42

ISSUE DATE:

2002-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/172140>

RIGHT:

8.4 天文台で開催された研究会

2001年5月21日-25日	第2回 花山データ解析ワークショップ	花山天文台
2001年6月8日-10日	京大天文台将来計画ワークショップ	飛騨天文台
2001年8月12日	第7回 関西プラズマ天体物理フォーラム	飛騨天文台
2001年8月21日-22日	天体 MHD 研究会	花山天文台
2001年11月7日	学振日米共同研究ワークショップ 太陽コロナと地球磁気圏における 磁気リコネクション	花山天文台
2001年11月8日-9日	一般相対論的 MHD 研究会	花山天文台
2001年11月21日	JST プロジェクト天体シミュレーション グループ研究会	花山天文台

8.5 共同研究・受託研究

平成 13 年度 日米科学協力事業 共同研究

「太陽コロナおよび地球磁気圏における磁気リコネクション」

(代表: 柴田一成、予算: 2614 千円)

米国代表・ニシカワ博士 (ラトガース大)、分担者・町田忍博士 (京大理地球物理) らと共に、太陽コロナおよび地球磁気圏における磁気リコネクションの比較研究に関する共同研究を行なった。その結果、地球磁気圏で知られていた dawn-dusk asymmetry と類似の現象を、太陽コロナ中に発見した (Isobe et al. 2002, GRL, in press)。また、ニシカワ博士と磁気リコネクションの粒子シミュレーションに関する共同研究を進めた。

平成 13 年度 科学技術振興財団 計算科学技術活用型特定研究開発推進事業

「宇宙シミュレーション・ネットラボラトリーシステムの開発」

(代表・松元亮治・千葉大教授)

本共同研究プロジェクトにおいて、「天体シミュレーションコード開発」(予算: 1628 千円) を分担し、シミュレーション結果を観測データと比較することにより天体の構造や物理量を導出したり、シミュレーション・コードの妥当性を検証したりするモジュールの開発を進めた。また、シミュレーション夏の学校の開催に講師として協力した。

民間との共同研究

「宇宙天気予報の基礎としての太陽面爆発予報用ソフトの開発」

(代表: 柴田一成、予算: 3,974 千円)

(財) 千里国際情報事業財団 (情報システム科学研究所・主席研究員・上善恒雄氏)、および株式会社ヒューマンエンジニアリング・アンド・ロボティックス (取締役社長・岡村勝氏) と共に、表記の課題について共同研究を行ない、太陽面爆発 (フレア) 数値予報用ソフトとして、フレアの 2 次元電磁流体数値シミュレーション用ソフトを開発した。これにより、太陽 X 線観測衛星「ようこう」が観測した巨大カスプ構造とそれにとまなう噴出現象や衝撃波を再現するのに成功した。

受託研究

「惑星間ミッションを用いたフレア観測の概念に関する研究」

(代表: 黒河宏企、研究委託機関: 独立行政法人 通信総合研究所、研究経費: 8,400 千円)

太陽フレアの発生機構の解明では、超高空間分解観測が必要であり、きわめて特殊かつ大型の望遠鏡が必要である。この条件を満たす観測施設は日本においては京都大学大学院理学研究科附属天文台のドームレス太陽望遠鏡のみであり、加えて京都大学が蓄積した高空間分解データ解析と計測開発技術を通信総合研究所の太陽観測衛星 L5 計画の中で有効に活用する。このため飛騨天文台ドームレス太陽望遠鏡の高空間分解データを分析した上で、フレア・CME 発生機構に関する研究を更に発展させる為に、L5 ミッションが貢献すべき研究目的とその方法 (装置の概念設計を含む) を明確化する。更に、可視光域の単色像撮像のための装置の概念検討を実施して、必要な基礎実験の一部を実施した。